

環境学研究科  
社会環境学専攻

伊藤 友一さん 博士課程後期2年

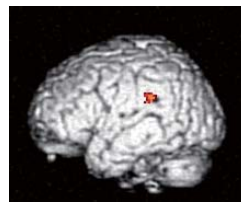
認知心理学を専攻する伊藤友一さんの研究は、記憶のしくみの解明。その中でも特に、未来をイメージする能力について研究を続けている。人は未来を思い描く。次の日曜のデートの様子、会社で働く自分の姿。将来自分が経験すると思える未来の出来事について、詳細なイメージを描く。このとき、どのようなメカニズムが働くのか。「小説『博士の愛した数式』の博士は健忘症患者で、数学や日常生活で必要となる知識など意味的情報はちゃんと覚えているのに、自分が経験したことは忘れていく。そのような健忘症の人は、個人的な未来の出来事も考えられないという事例が報告されています。そういうところから、未来を考える能力の背景には、過去の経験の記憶を思い出す能力が必要なのではないかと考えられるようになりました。そのような仮説のもとに、未来をイメージする能力についての研究は始まりました」。

人が未来の出来事について考えるとき、過去に体験した様々なエピソードの記憶を検索し、未来の特定の状態に合わせて再構築していると考えられている。それでは、未来のイメージに使われる記憶情報はどのようにして選択されているのだろうか。また、未来の出来事をイメージする上で、意味的な情報はどのような役割を担っているのだろうか。それらが伊藤さんの目下の疑問だ。日々の研究では、予想通りにいかないこともあるが、「なぜ」を突き詰める好奇心は尽きない。そもそも、どういうメカニズムで記憶はできているのか。人間の奥深さを物語る「記憶」。伊藤さんが解明したい領域は、まだまだ残されている。

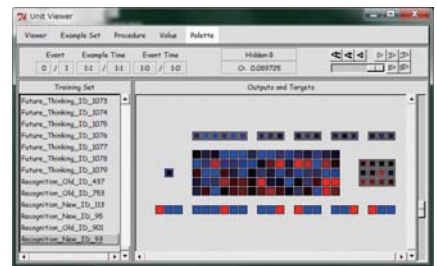
## 記憶という未知の領域に挑んで



伊藤さんと愛車



3年前の共同研究(なつかしき研究)の脳画像。第一著者(川口潤先生)が国際学会でポスター発表に使ったもの。一昔前の音楽を聞いて、懐かしさを感じられた場合に特徴的な脳活動を示している。



コンピュータシミュレーションのプログラム実行中(Lensというソフトウェアを使用)の画像。

未来の出来事をイメージする際に意味記憶のシステムがどのような役割を担っているのかをコンピュータシミュレーションによって解明しようと試みている。

 名古屋大学

〒464-8601

名古屋市千種区不老町 名古屋大学大学院環境学研究科

TEL.052-789-3455

www.env.nagoya-u.ac.jp/

